

### 1 自己評価及び外部評価結果 (西棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300270		
法人名	有限会社 クレイドル		
事業所名	グループホーム もみの木(西棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字北東川171		
自己評価作成日	平成22年 1月 8日	評価結果市町村受理日	平成22年10月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は毎日散歩に出かけており、地域の方から気軽に声をかけて頂きお花や野菜を頂くこともあります。雨天で散歩へ行けない日は、室内で「はつらつ体操」をしています。毎日3時のおやつの前にも「リハビリ体操」をし体を動かして頂くようにしています。風邪や感染の予防のためにも外出後の手洗いやうがい、食事前・排泄後の手洗いを徹底しています。食後の口腔ケアでは、その場で職員が見守りし、終了を確認後チェック表に記入するようにしています。毎朝の朝礼時の申し送り、申し送りノート、ショートミーティングを活用し利用者様の状態を把握するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天気の良い日は毎日散歩に出かけていると云う事業所のアピール通り、丁度訪問時に利用者が玄関から出て来るところに遭遇した。「今日は風もないし、いいわ～」と互いに声を掛け合い、元気に散歩に出掛けて行かれる後姿はとても嬉しそうで、小春日和の陽気のように、ほんわかと温かい気持ちになれた。今年度は特に個別支援にも力を入れ、誕生日を個別対応の希望実現の日と決め、「誕生日計画表」で利用者と職員が楽しく計画を練っている。外出あり、外食ありの計画実現は、きっと利用者の心に届く支援とならぬと思いたい。  
「人を育てるのが私の仕事」と言う管理者の下、「ここで働きたいと思われる職場作りをしたい」リーダーが、人材育成と職場環境整備に手腕を発揮し、ますますの質の向上に期待ができるホームであ

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に唱和し、共有化している。 6項目の重みを感じ同じ気持ちで行っていきけるように日々努力している。	ホーム理念は、玄関フロアー、事務所内に掲示しており、管理者・職員はいつでも確認できるようにしている。理念は毎朝の朝礼時に唱和をして周知、共有化を計っている	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事参加(弘法様、納涼盆踊り) ・保育園児(年2回)小学生(年1回)と交流会 ・子供110番の緊急避難場所	地域の行事の参加、盆踊り、カラオケ大会への参加をはじめクリスマス会には小学生がホームへ来所するなど利用者との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・キャラバンメイトの研修を受ける(管理者) ・扶桑町認知症サポーター養成講座を全スタッフが受ける。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町役場、地域包括支援センター、町会議員、民生委員、ご利用者代表、ボランティア代表、ご家族代表との充実した時間が過ぎます。	運営推進会議には、利用者や家族の他、町担当者・地域包括支援センター・民生委員・町会議員・地域代表等の出席があり、ホームの行事や近況報告等、活発な意見交換が行われている。	目的通りの運営があるが、開催回数が必要に足りない事から、今後の改善が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議をさせて頂くことにより顔なじみとなり気軽に声をかけて頂いたり相談できるようになった。 ・利用者様の空状況、待機状況等連絡をさせてもらっている。	市町村役場の健康課とも気軽に声掛けが出来る関係が築かれている。また、地域包括支援センターとは、利用者紹介等の連携がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H20・4/1 扶桑町高齢者虐待ネットワーク運営委員会の委託を受ける。 身体拘束、玄関の鍵をかけない方向で行っている。	日中は玄関の施錠は行わず、利用者が自由に出入りできる環境を整備している。また、町の高齢者虐待ネットワーク運営委員会のメンバーとして、常に最新情報の収集に努め、正しい情報と知識で支援に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケガや打撲等がないか利用者様の身体等に気配りをしている。(特に入浴時に確認をしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は研修に参加し理解している。いつでも制度を必要とされている方においては地域の専門職の協力が得られるようになっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、利用者家族に説明・同意を得ている。又、何か不安や疑問点等は「いつでも聞いてください」と話してある。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとに利用者家族にアンケートを出し集計し次の会議での課題としている。	モニタリング・アセスメントの家族意向・希望調査を兼ね、3ヶ月に一度の満足度調査と希望聴き取りを行い、確実に介護計画に反映を図っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼の申し送りノートに記入し(サイン)毎日のショートミーティングでスムーズに業務ができるようにしている。ショートミーティングは代表者からの提案。	朝礼での申し送りを記録し全職員で回覧・周知を図るとともに、ショートミーティングで対応・対策を協議し、職員意見の聴き取りを図っている。ショートミーティングは、職員意見の聴き取り・吸い上げに大きな効果を上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務に全員休み希望を設けていて、それをふまえて勤務を作成している。お互いに「ありがとう」と言える職場作りに努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が送られてくると、ほとんど参加して頂くようにしている。ヘルパーの無い方は働きながら取得して頂くようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症GH連絡協議会に加入している。扶桑町内のグループホームとの合同研修。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、介護支援専門員等によりゆっくりと話をさせて頂き、聞き取りながら進めている。それには施設の雰囲気、他の利用者様の笑顔が大切。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、介護支援専門員等により要望を聞くようにしている。困っておられることを受け止め心がけていく。見学時の施設の雰囲気が大切。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みをされる前に見学して頂き、家族・本人が納得されてから申し込みをして頂くようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家族同様に暮らし、泣いたり笑ったり、時には怒ったりしながら食事の準備や後片付け等を一緒に行なっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の日報が細かく記入されており家族訪問時に伝えたり話をさせてもらっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に言っておられた喫茶店や食材の買出しや利用者様が入院されている病院へ見舞いに行ったりしている。	入所前に利用していた喫茶店への外出、馴染みの店での買い物等、地域生活の継続に努めている。また、家族関係継続の支援、電話・手紙の取り次ぎ等、利用者本位の支援を実践している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が口喧嘩をされたり、どこにでも(トイレ)一緒に行かれたりとそれなりに関わりを持って生活されているのをスタッフが上手に関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の病院や施設に移られても連絡のとれる限り訪問させてもらっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集(本人・家族・介護支援専門員他)お1人1人の生活暦を大切にしながら援助をしている。	積極的に日常の聴き取りを重ね、利用者一人ひとりの意向・希望の把握に努め、介護計画へ反映させている。また、集大成として、誕生日には個人対応で希望実現をする取り組みがある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集(本人と一緒に暮らしてこられた家族等)又、本人と会話をしながら引き出していく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の細かく記入された日報・朝の申し送りノート、毎日のショートミーティング等からの24時間の行動の把握。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の細かな、又的確なアセスメントがなされ、家族に説明・同意をもらいそれに沿って援助計画がなされている。又、見直しができる体制になっている。	ケアマネージャが中心となり、利用者・ご家族の希望、要望を取り入れた介護計画を立案し、一人ひとりに個別のプランで、その時に応じたサービス提供に取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録類は各棟の事務所でいつでも誰にでも見られるようにしてある。毎朝の夜勤の朝礼の申し送りノートにより情報を共有でき毎日のショートミーティングへの活用が大きい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くの委員の提携医があり緊急時の病院の確保。年1回健康診断(X線・心電図)。3ヶ月ごとの採血。毎月各棟1回の主治医による往診(助言は家族に必ず伝えている)。(週1回内科医ナースのボランティアでの訪問)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な消防避難訓練の実施。</li> <li>全職員の救命救急講習</li> <li>ボランティアの受け入れ</li> <li>体験学習の受け入れ</li> </ul>		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が希望される医療機関への通院受診ができるように対応している。協力医療機関以外への受診については家族対応をしているが例外もある。	ホーム提携医の往診、希望医療機関への受診等、希望に応じた柔軟な対応がある。利用者第一のホーム対応に、家族からも安心の声が多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名勤務して頂いており、近くに住まいの為緊急時対応して頂いている。又、内科医の看護師ともスムーズに連絡可。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときはすぐに出向き今後の治療方針等、相談できるようにしている。退院できるようにあれば早目に施設で過ごして頂くようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医・家族・本人・スタッフ等とその都度話し合いながら段階的に終末期に向けて安心して頂けるようにしている。(書類に同意書を頂いている)	利用者・家族希望や要望を確認し、ホームとしての支援の限界を踏まえた話し合いを行っている。提携医も交え、終末期に向けて段階的に納得していただきながら支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員救命救急講座取得中		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域「Dサポート丹羽」の災害に強い町作りの活動に参加。</li> <li>夜間想定避難訓練実施</li> </ul>	地域の「災害に強い町づくり活動」に参加し地域と共に防災に取り組んでいる。ホームとしては年2回の避難訓練を実施し、その内、夜間想定避難訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の記録等、大切なものは事務所の鍵のかかる書庫の中へ保管。入浴や排泄時の声かけに注意しながら行っている。	利用者一人のプライバシーに配慮して対応している、例えば、訪問時も、いつ排泄誘導をしていたか分からなかった程、声掛けが丁寧にされており、日常的な適切な支援がうかがえる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買出し、喫茶店、毛染め、家族への連絡等対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク等は1人1人のやりたいこと(塗り絵・新聞や週刊誌をみる等)を個々にやって頂けるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月(第3火曜日)に理美容カット・顔そりを、床屋さんはその都度、毛染めは美容院へ出向いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時の食卓拭き・膳拭き・配膳等声かけをして行ってもらっている。下膳はできる方はご自分でやって頂いている。	早く食事を摂取される方、ゆっくりの方とスピードはさまざまであるが、最後の方が食べ終わるまで職員、利用者も席を立つ事が無かった。誰もが落ち着いて食事を楽しめる雰囲気がとても優しく感じられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって粥・細かく刻む人等、器をかえたり(食べやすく)している。食事が摂れない方はラコールで対応させてもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(チェック表あり)。毎週日曜日の昼食後は消毒を30分行っている。(歯科医の指示)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は布パンツにパット対応で、個々の時間を把握し声がけ・トイレ誘導をさせてもらっている。夜間はリハビリパンツにパット対応とし	トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりに合った方法で支援を実践している。見守り・誘導・移動介助・排せつ助等を適切に支援し、利用者も満足そうである。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に気をつけたり、水分摂取に心がけている。提携医と相談させて頂き便秘薬を処方してもらっている方もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は月・水・金(東棟)、火・木・土(西棟)、原則的に日曜日以外は入浴できる。	各ユニットで隔日の入浴が提供されている。希望者は日曜日以外は毎日入浴が可能であり、楽しみの一つとなっている。清潔確保・楽しみ支援両面から、利用者本位の支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないように居間(リビング)にてスタッフが見守り。眠剤は飲んで頂かないように昼間はレク等に参加して頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬服用するまでに四重にチェックできる体制。本人に飲んで頂く時に名前・日時・朝か昼か夕かを声に出して本人の手に渡し、口の中へ入れ飲まれるまで見守りをする。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の買出し、洗濯干し、たたむ、各棟でトランプをされたり塗り絵をされたり個々の支援をしている。喫茶店や病院の見舞いに出かける。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気の良い日は全員で散歩に出かけている。30分くらいの日課となっている。家族と食事や喫茶店によく行かれている方もいる。	毎日の日課になっている近隣散歩、地域の喫茶店利用、家族との外出等、一人ひとりの思いや希望を叶える外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のことは皆さん気にされている。「お金がなくなった!」「盗られた!」が定番になっている。入所前に家族に説明させてもらい小口分(往診代・喫茶店代等)のために少しお預かりさせてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が頻回に訪問に来られるので電話されることは無い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には折り紙等の作品がある。居間の入り口には本人の作品を貼ったりしている。	共用空間は明るく採光も十分に入り、日中は日向ぼっこが出来る様な暖かい日差しがある。常時音楽が流れるゆったりとした環境であり、高齢者の生活環境として十分な配慮が感じられる。玄関は季節毎に飾り付けを行い、今回は雛人形と対面できた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファと1人掛けの椅子、テーブル、又金魚等も飼っています。金魚に話しかけたりされている。仲間同士の会話もされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物以外は何でも持ち込みが自由。使い慣れた家具や仏壇を持ち込まれており、花や水、お供えをされている。	どの居室も利用者の思い出の品が持ち込まれている。馴染みの物を利用者が安心して暮らせる様に配置し、心遣いのある暖かいホームの支援が又一段と環境を良くしているようで、どの利用者も穏やかな顔をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階建ての平屋造りの為、各棟エントランスや玄関を中心に往来し楽しまれている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (西棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300270		
法人名	有限会社 クレイドル		
事業所名	グループホーム もみの木(西棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字北東川171		
自己評価作成日	平成22年 1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年10月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300270&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は毎日散歩に出かけており、地域の方から気軽に声をかけて頂きお花や野菜を頂くこともあります。雨天で散歩へ行けない日は、室内で「はつらつ体操」をしています。毎日3時のおやつの前にも「リハビリ体操」をし体を動かして頂くようにしています。風邪や感染の予防のためにも外出後の手洗いやうがい、食事前・排泄後の手洗いを徹底しています。食後の口腔ケアでは、その場で職員が見守りし、終了を確認後チェック表に記入するようにしています。毎朝の朝礼時の申し送り、申し送りノート、ショートミーティングを活用し利用者様の状態を

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝の朝礼時に唱和し、共有化している。</p> <p>6項目の重みを感じ同じ気持ちで行っていきけるように日々努力している。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事参加(弘法様、納涼盆踊り)</li> <li>・保育園児(年2回)小学生(年1回)と交流会</li> <li>・子供110番の緊急避難場所</li> </ul>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラバンメイトの研修を受ける(管理者)</li> <li>・扶桑町認知症サポーター養成講座を全スタッフが受ける。</li> </ul>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場、地域包括支援センター、町会議員、民生委員、ご利用者代表、ボランティア代表、ご家族代表との充実した時間が過ぎます。</li> </ul>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議をさせて頂くことにより顔なじみとなり気軽に声をかけて頂いたり相談できるようになった。</li> <li>・利用者様の空状況、待機状況等連絡をさせて頂いている。</li> </ul>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>H20・4/1</p> <p>扶桑町高齢者虐待ネットワーク運営委員会の委託を受ける。</p> <p>身体拘束、玄関の鍵をかけない方向で行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ケガや打撲等がないか利用者様の身体等に気配りをしている。(特に入浴時に確認をしている)</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は研修に参加し理解している。いつでも制度を必要とされている方においては地域の専門職の協力が得られるようになっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、利用者家族に説明・同意を得ている。又、何か不安や疑問点等は「いつでも聞いてください」と話してある。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとに利用者家族にアンケートを出し集計し次の会議での課題としている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼の申し送りノートに記入し(サイン)毎日のショートミーティングでスムーズに業務ができる様にしている。ショートミーティングは代表者からの提案。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務に全員休み希望を設けていて、それをふまえて勤務を作成している。お互いに「ありがとう」と言える職場作りに努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が送られてくると、ほとんど参加して頂くようにしている。ヘルパーの無い方は働きながら取得して頂くようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症GH連絡協議会に加入している。扶桑町内のグループホームとの合同研修。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、介護支援専門員等によりゆっくりと話をさせて頂き、聞き取りながら進めている。それには施設の雰囲気、他の利用者様の笑顔が大切。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、介護支援専門員等により要望を聞くようにしている。困っておられることを受け止め心がけていく。見学時の施設の雰囲気が大切。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みをされる前に見学して頂き、家族・本人が納得されてから申し込みをして頂くようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家族同様に暮らし、泣いたり笑ったり、時には怒ったりしながら食事の準備や後片付け等を一緒に行なっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の日報が細かく記入されており家族訪問時に伝えたり話をさせてもらっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に言っておられた喫茶店や食材の買出しや利用者様が入院されている病院へ見舞いに行ったりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が口喧嘩をされたり、どこにでも(トイレ)一緒に行かれたりとそれなりに関わりを持って生活されているのをスタッフが上手に関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の病院や施設に移られても連絡のとれる限り訪問させてもらっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集(本人・家族・介護支援専門員他)お1人1人の生活暦を大切にしながら援助をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集(本人と一緒に暮らしてこられた家族等)又、本人と会話をしながら引き出していく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の細かく記入された日報・朝の申し送りノート、毎日のショートミーティング等からの24時間の行動の把握。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の細かな、又的確なアセスメントがなされ、家族に説明・同意をもらいそれに沿って援助計画がなされている。又、見直しがすぐできる体制になっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録類は各棟の事務所でいつでも誰にでも見られるようにしてある。毎朝の夜勤の朝礼の申し送りノートにより情報を共有でき毎日のショートミーティングへの活用が大きい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くの委員の提携医があり緊急時の病院の確保。年1回健康診断(X線・心電図)。3ヶ月ごとの採血。毎月各棟1回の主治医による往診(助言は家族に必ず伝えている)。(週1回内科医ナースのボランティアでの訪問)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な消防避難訓練の実施。</li> <li>全職員の救命救急講習</li> <li>ボランティアの受け入れ</li> <li>体験学習の受け入れ</li> </ul>		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が希望される医療機関への通院受診ができるように対応している。協力医療機関以外への受診については家族対応をしているが例外もある。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名勤務して頂いており、近くに住まいの為に緊急時対応して頂いている。又、内科医の看護師ともスムーズに連絡可。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときはすぐに出向き今後の治療方針等、相談できるようにしている。退院できるようにあれば早目に施設で過ごして頂くようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医・家族・本人・スタッフ等とその都度話し合いながら段階的に終末期に向けて安心して頂けるようにしている。(書類に同意書を頂いている)		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員救命救急講座取得中		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域「Dサポート丹羽」の災害に強い町作りの活動に参加。</li> <li>夜間想定避難訓練実施</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の記録等、大切なものは事務所の鍵のかかる書庫の中へ保管。入浴や排泄時の声かけに注意しながら行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買出し、喫茶店、毛染め、家族への連絡等対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク等は1人1人のやりたいこと(塗り絵・新聞や週刊誌をみる等)を個々にやって頂けるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月(第3火曜日)に理美容カット・顔そりを、床屋さんはその都度、毛染めは美容院へ出向いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時の食卓拭き・膳拭き・配膳等声かけをして行ってもらっている。下膳はできる方はご自分でやって頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって粥・細かく刻む人等、器をかえたり(食べやすく)している。食事が摂れない方はラコールで対応させてもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(チェック表あり)。毎週日曜日の昼食後は消毒を30分行っている。(歯科医の指示)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は布パンツにパット対応で、個々の時間を把握し声がけ・トイレ誘導をさせてもらっている。夜間はリハビリパンツにパット対応とし		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に気をつけたり、水分摂取に心がけている。提携医と相談させて頂き便秘薬を処方してもらっている方もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は月・水・金(東棟)、火・木・土(西棟)、原則的に日曜日以外は入浴できる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないように居間(リビング)にてスタッフが見守り。眠剤は飲んで頂かないように昼間はレク等に参加して頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬服用するまでに四重にチェックできる体制。本人に飲んで頂く時に名前・日時・朝か昼か夕かを声に出して本人の手に渡し、口の中へ入れ飲まれるまで見守りをする。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の買出し、洗濯干し、たたむ、各棟でトランプをされたり塗り絵をされたり個々の支援をしている。喫茶店や病院の見舞いに出かける。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気の良い日は全員で散歩に出かけている。30分くらいの日課となっている。家族と食事や喫茶店によく行かれている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のことは皆さん気にされている。「お金がなくなった!」「盗られた!」が定番になっている。入所前に家族に説明させてもらい小口分(往診代・喫茶店代等)のために少しお預かりさせてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が頻回に訪問に来られるので電話されることは無い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には折り紙等の作品がある。居間の入り口には本人の作品を貼ったりしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファと1人掛けの椅子、テーブル、又金魚等も飼っています。金魚に話しかけたりされている。仲間同士の会話もされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物以外は何でも持ち込みが自由。使い慣れた家具や仏壇を持ち込まれており、花や水、お供えをされている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階建ての平屋造りの為、各棟エントランスや玄関を中心に往来し楽しまれている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム もみの木

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 10月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-	運営推進会議	2ヶ月に1度開催し、年6回とする	実施中 H22.3/26・5/28・7/29・9/24・11/26 予定 H23.1/28	12ヶ月
2	49-	外出(誕生日の産まれた日を尊重したい)	ご本人の行きたい所・食べたい物等出来る限りの事を聞いて対応する。		ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。